

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



元一日

初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教174年
10月号

立教174年 全教一斉にをいがけデー

親神様の教えを津々浦々に！

まず教会長が先頭に立って

10月19日付、天理時報で既報の通り立教174年「全教一斉にをいがけデー」が9月28日から30日まで実施された。これは年に一度地域に住むお互いが力を合わせ、一手一つに心を揃えて親神様の神名、お道のにをいを広めていこうというもの。今年で79回目。

28日、29日、30日は「よふぼく実動日」として支部を中心によふぼくが、にをいがけ活動を展開し、28日は「教会長路傍講演の日」として教会長が先頭に立って神名流し、リーフレット配布、戸別訪問、路傍講演などを行った。

大教会につながる各教会、よふぼくも「『たすけあい』こそ人間の生き方」のリーフレットを手に支部、教会ごとに各地で参加、実動した。

「教会長路傍講演の日」の28日、管内の教会39ヶ所の内、34ヶ所が笠岡大教会部内教会という広島教区東部支部(山田敏教支部長)の活動取材した。

当日は教会長29人、よふぼく8人が参加した。

午前10時、府中市の府中市分教会(豊田宏哉会長)に集合。

山田敏教同支部長が「最近、ある団体の行事に招かれた。参加者の熱意もさるものながら指導の立場にある人達の考え方、行動、統率力に感心すると共に、リーダーシップの大切さを痛感した。

天理教で『全教』がつく行事は『ひのきしんデー』『にをいがけデー』の2回だ。その一つが今日で、まず教会の竜頭たる教会長がよふぼく、信者の先頭に立ってにをいがけの実動を推進して頂きたい」と挨拶。

この後、参加者を元気な人、高齢な人の2班に分けて行動。男性はネクタイ着用、女性はスラックス、スカート姿。

元気な人のグループは、同教会から約1.5km離れた福廣分教会まで「陽気ぐらしの天理教感謝、慎み、たすけあい」と染め抜かれた路傍講演旗を先頭に、山野弘実上下分教会長の拍子木に合わせて全員で「みかぐらうた」を唱和し神名流しを行った。同教会前では山野弘実同会長がハンドマイクを使用しての路傍講演。

大教会本年心定め

- 初 席 者 数 279人(67人)
 - よ ぶ ぼ く 数 217人(39人)
 - 修 養 科 修 了 者 数 135人(10人)
 - 教 人 登 録 者 数 114人(1人)
 - 参 考) 教 人 資 格 講 習 会 (2人)
 - 教 会 長 資 格 検 定 講 習 会 (5人)
- (括弧内は1月1日～9月30日)

記念祭までに心定めを完遂するよう
つとめさせていただきます

引き続き、神名流しをしながら眞府分教会(高田一弘会長)へ。道中、地区内の公園では参加者が一列に並んで「みかぐらうた」を唱和。横山逸郎東城分教会長、同教会前では高田一弘同会長、山田睦浩甲井分教会長が路傍講演。弁士以外の参加者は周辺でリーフレットの手渡し配布を行った。

続いて、府中市内商店街(銀天街)で神名を流して歩いた。商店内から手を合わせている高齢の女性もいた。



声高らかに神名流しを(府中市石州街道で)

最後に、同市内バス通りに面した駐車場(教内者所有)で丸山正人木津和分教会長、岡本雅也豊田分教会長(尾道分部内)が声高らかに道行く人達に親神様のお話しを伝えた。地域の教友が路傍講演をカメラに収める場面もあり、約1時間半の活動を終えた。

一方、高齢の人達は府中市分教会周辺で、戸別訪問やリーフレット配りなどを行った。

同支部では、2ヶ月前から毎月2日の例会で、支部長を中心に「教会長路傍講演の日」に向けて管内の全教会長の参加を目標に弁士の選出、路傍講演場所、神名流しコースと役割、そしてリーフ



道行く人達に親神様のお話しをする参加者

レットはポスティングではなく、出来るだけ戸別訪問や手渡しで行うことなど話し合ってきた。

当日、集合時間に欠席の教会長には出欠の有無を電話連絡した。昨年より1名増えた。

反面、路傍講演の場所、方法(時間帯によって人通りの変化、ほとんど立ち止って聞く人はいない)、また講演弁士は各組(管内組数は8。今回はその内の4組から選出)から選出という事前の取り決めにもかかわらず、路傍講演は苦手だという理由で弁士を辞退する人も。結果、毎年、同じ人が弁士をとめるといふこともあり、今後の活動に課題を残した。

節

談話室



甲井分教会前会長 山田 敏 教

このせかい山ぐゑなそもかみなりも

ぢしんをふかせ月日いいふく

六 91

地震に関する「おふでさき」を悟らせて頂くと、親神様の残念、立腹と思わせて頂ける。しかしそれは、これら一連のお歌の背景にある権勢をもつて、本教を弾圧した人々「高山」の横暴に対してのおことばと、同時に「高山」を恐れて、神一条から遠ざかった人々に対する警鐘と、悟らせて頂ける。この地球上で、又、国際社会で、常に一番先頭を走ってきた日本は最近存在感を失い、国際化の波にのれず将来像も、夢もない、まったくつかめない教育は、画一的で、政治と来たら(八月二十三日の産経新聞に民主代表選どんぐりの背比べ、永遠のたらい回し)信念も、目標もなくなっている様な気がしている昨今に大震災が発生し、人間の力のすべてを打ちのめすほどの地震と津波が東日本を襲った。自然の猛威に、ただただ、呆然と立ちすくんで、もう半年。みちねと

も九月号によると、震災発生直後より七月二十日迄の百三十日間、延べ一万八千六二一人の災救隊員の活動報告が発表されて居りますが感動と感謝で一杯でございます。大教会でも、自主的な出勤がなされ、まだあるなら私もと、ひのきしん本来の、勇み心が伝わって見送る私達迄もが、勇ませてくださいました。日本は、過去、二度の奇跡を起こして居るが、必ず三度目の御守護を(奇跡を起こし)どうしても、東日本、日本を復活させなければならぬと思う。繊細さで、緻密、探求心が強く、勤勉な民族の日本人は、素晴らしい国民性がある。明治のお道の先人達の信仰のすばらしさと同様、過去の奇跡の一つは、明治維新の時代、幕藩体制から近代国家をあとという間に作った事。その中に三〇〇を超える諸藩の教育体制で現在の一律な教育制度とは違い、それぞれの藩ごとの教育が行われ特色を持って、熱意ある教育で素晴らしい人材が、新しい時代を築いて、今日の日本があると思う。

もう一つの奇跡は、終戦後わずかの間に復興し、世界有数の経済大国になった事だと思う。敗戦で廃墟になった土地で、皆なが寝食を忘れて働き立ち直ったのである。しかし「経済大国」の時代が来た私達(昭和十八年生)が、若い時代、新幹線が出来、オリンピック、万博と、お祭り騒ぎの道中、真面目な実直な、国民性が色あせ、人々は考えな

くなり闘争心もなく経済的な豊かさだけを求め、日本の文化、生活文化の豊かさを忘れてしまい未来を担う子供は、親の思いのままに、敷いたレールの上を走るのに精一杯で、想像力をつける為の、貴重な時間さえもない。八月二十二日からの少年会のキャンプ等、スタッフの方々は大変だと思いが、もっともっと大勢参加し、自然の中で自由奔放にさせるべきと思う。本来、子供は友達と、自由に、自然と戯れながら遊んで、好奇心、感性を磨き、挑戦する勇氣や責任感を、身につけて行くのであるが、今、子供達は過保護に育てられ、自分で考える体験が、絶対必要であり緊張感も、判断力のないまま成人し、大人の仲間入りするや、社会を支える立場に立つ。正しい価値観で物事を決めることができず、国際社会で立ち遅れている今の日本を、子供を、取り巻く状況は、決して無関係ではないと思う。改めて、少年会のお泊まり会、子供おぢばがえり、学生生徒修養会と大事だと思わせて頂くのである。私達の時代は、自分で生きる力を、身につけないとならないという思いを皆なが持っていたが、今は、自分の意志が希薄で、人と直接ぶつかり合おうとしない。芯の弱い今の若者や子供を見ていると日本の将来が淋しくなる。人間性を育む教育を行い、自分なりの価値観をもつ自立した個人をつくり、家族や地域への愛情を持った日本人の国民性を回復したいものだ。

改めて元に戻り

このはなしなんともふてきいてる

てんび火のあめうみわつなみや

六 116

こらほどの月日の心しんばいを

せかいぢうハなんとをもてる

六 117

とのおふでさきのお歌からすれば、こうした節は、広く「せかい」に対して、おのべになった警告であり、我々一人ひとりが、親神様の真意を悟り、心を立て替えて、いくためのものと思う。決して罹災された方々に向けられた、おことばではない。今現在「高山」について思う事は、社会全体に漂う自己中心主義な流れとすべてを、金銭や、人知、人力であやつろうとする人間の傲慢さだと思ふ。

おさしづに

……ずつない事はふし、ふしから芽を吹く。

やれふしやく、楽しみやと、大きな心を持つ

てくれ。……(後略)

明27・3・5

とおさとし、お教えいただいている中、これほどの今回の未曾有の大災害であっても、長い月日には、必ず芽が出てくる。我々よふぼくが、一丸となって活動に、又、にをいがけ、おたすけに心注げば必ず御守護頂けるし、親の思いを感じて、勇んでたすけ合う中に、いかなる災難困難な節からも、芽が吹き、今から先々楽しみな道を通らせて頂けるものと信じている。我々皆、親神様の子供であり兄弟姉妹で、親神様の懐に住まわせて頂き、

銘々が、かりものの体を使わせて頂き、心一つをわがのものとして、生かされているそうしたお互いが陽気ぐらしをする為、日常生活の中で心のほこりを払い、心を澄まして、たすけ合って頑張っ
て共々に勇ませて頂く中に、一日も早く、この度罹災された方々の笑顔が見れますよう、希望を持って節を乗り越えていただきますよう皆なで支え続けて応援させて頂きましょう。更には又、十一月三十日、残り僅かとなりました大教会創立百二十周年記念祭に向けて、よふぼく一同一丸となって、親の思いに添わせて頂ける様、心一つにして頑張らせて頂きましょう。

温故知新

いきいきエピソード 8

初代会長のおたすけ

初代会長のおたすけ話はあまり残っていない。無理もないと思う。笠岡に帰って来た時の家族構成は、上原佐吉、本人、長女・光、五女・フサ、笠原イシの五人である。それに笠原荒太が後に加わるが、年齢をみると、家族である佐吉・光・フサは七十歳と七歳と一歳、イシさんは東京に出た佐助さんの腹違いの妹で辻川家に嫁

ぎ、荒太氏は佐助さんの子供であるが、笠岡市大島の難藤家に預かって頂いていたのを、初代が申し訳ないと言って引き取った方である。(この件については又機会があれば詳述したい。)初代は、「笠岡の道は歩いて歩いてついた道」と語っていたが、そのおたすけ、にをいがけに同行した者は誰もいないし、帰って来ても話すに足る人は、年老いた佐吉さん以外に傍に誰もいなかった。おたすけ戴いて次々と上原家を訪れる人で毎日ごった返す中で教会設立となっていくのである。

昭和初年、三代会長・上原繁雄の意思で役員・川合梅太郎が中心となって「笠岡分教会史」が昭和七年上梓された。初代の聞き書きがなされたと思うが、助けられた人々が存命でいる時代であり、「あの時はなあ・・・」という風におたすけ話を話す訳にいなかったのではないかと思う。

幸い初代は長命であった。笠岡支教会として名称が設立されて、分教会、中教会、笠岡大教会と陸級した後、昭和十七年に出直しているの
で、その間、部内教会長をはじめ、その家内、役員、よふぼく達が時折訪れておたすけを受けたりしている。昭和四十七年十月二十日、上原さと三十年祭が執り行われたが、数人の教会長、

役員達が想い出話を語っている。貴重な話なので、ここに収録しておきたい。

先ず最初に演壇に立たれたのは門脇一教氏である。一教氏は明治中頃、笠岡初代の命を受けて島根の地盤に笠岡から修理丹精に赴き教会設立をした初代・浅野彌三郎氏の長男で、三代会長・門脇清太郎氏に、とてもなついて彌三郎氏が島根を引き揚げる時に門脇家に残してきた人である。一教氏六歳の時である。生まれながらに奇しき因縁を持った人と言うべきなのか。成人して四代会長に就任し島根分教会の疾風怒濤の時代を部内教会を丹精して教勢伸展に努め、明治時代内務省訓令により名称取消となり、復興した折り「島根分教会」では地方庁の認可が取れずやむなく「雲東分教会」として復興認可の下りた名称を元の「島根」に見事に復興した中興の祖である。島根教区長を永年勤め、私が道友社にいた頃、出雲民芸紙製作で著明だった安部榮四郎さん(昭和四十三年三月人間国宝に指定)を紹介頂いた事があった。今から思えば身上を押し、よく紹介の労を執って下さったと思う。以下、昭和四十七年十月二十日の想い出話の要旨である。

「大正七年十月、数えて二十二歳の秋の事でありました。本部大祭に帰って二十六日の夕づ

とめに参拝して、その後芦津詰所にどうして帰って来たか分らず急に意識を失ったらしい。意識が戻ったのは、二十九日の朝でした。芦津の詰所の一室に寝せて頂いていました(当時笠岡は芦津部内)。そして枕元に初代様と叔母の相田フサが坐っていて、お二人が看護して下さいのを知りました。意識は戻ったが物は言えず、手も足も十分動かず、初代様が、「カズさんや、分かるか。カズさんや分かるか」と呼んで下さっており、大変な事になっているとは気がつきませんでした。初代様は「大変な事や」と仰って下さり、私は初めて容易でない身上と気づきました。けれども不思議に鉢の他の部分はどう痛むという事もなく、腹が減って腹が減って何か食べたくなってしょうがなく、枕元にリンゴや柿やバナナ等が沢山あったので思わず手を出した。後で分かった事ですが、芦津大教会長様や岡島先生、奥田先生が見舞いに来て持って下さったとの事でした。それを見て初代様が、大変キツイ声でお咎めになり、「一体誰に許されて食べるのか。カズさんはなあ、二十六日の夕づとめの後、分からんようになった。今日は二十九日や、エライ事や。島根へ電報を打とうと思うたが、ワザワザ遠方から来さすのに、もうすこし様子を見てと思うて、手紙を出しておいた。」と言われた。本当はもしもの事があるう

と思い連絡は控えられたようであります。そして枕元に置いてある土瓶を持ち上げ捧げて拜まれ、「カズさんや。このお水を戴いて死んだら本望やで。芦津大教会の初代の奥様が、先祖のお守りをしておられるので、御願いしまして存命の先祖の戴かれたお水を頂戴して来られたのやで。カズさんこのお水を戴いたら本望やろ。それを知らんこに、枕元の果物に手を出すとは何事か。カズさんや、よう聴け。お前は親と六歳の時別れて、島根の門脇さんにお世話になって育て貰った。だから私は、かんろう台に参拝して救けて下さいとは御願いしておらんで。この子が将来お道の御用に使うて戴けるなら、使うて下さいませと御願いしている。この私の言う事が分かるか」と仰る。そして私が分かりましたとの思いを込めて頭で頷くとニッコリして下さいました。

「ワイの言う事が分かるか。ワイのいう事が分かったら、サア戴け」と言うて、お水を吞ませて下されバナナの皮を剥いて、私の口の中に押し込んで下さいました。「皆様の真実で戴いた物だから、有難く戴け」とも仰いました。

翌日の三十日夕方には奥田先生におぶさり、風呂に入れて戴き、廊下伝いに杖を付いて歩いて部屋まで帰ったのが歩き初めでした。島根に帰らせて貰ったのは十一月十一日で御座いまし

た。それからというもの、曲がりなりにも道の中を通らせて頂きましたのは、実にその時の初代様のお助け、お導きの御陰で御座います。思えばいろいろと尽きない事で御座います。爾来今日までとにかくお道の御用一筋に使うて頂いて参りました。今日、初代様に何のご恩報も出来ません。ただ私が神様の御用に使うて戴き、今日まで生かして頂きました事は、まことに笠岡初代様のお陰で御座います。そのご恩に島根より手を合わせて日々御礼申し上げております。」

以上である。一教氏はこの後、大正九年三月、部内の出雲分教会二代会長に就任し大正十三年まで勤めている。当時の出雲の教会はあまり参拝者がなく、ある時の月次祭には、参拝場に座布団を折り立て並べて、それに向かって話をしたという逸話が残っている。島根分教会四代会長には、大正十五年就任している。初代会長であった実父・彌三郎氏は本庄(島根分教会所在地)から大東(出雲分教会所在地)へお救けに出で苦労されている事を思うと、ここにも何か親と子の魂のいんねんを感じる。次回は一度「かさおか」に収録した事があるが、彌三郎氏の島根・大東のおたすけ苦労について書いておきたい。

(笠岡史料部長)

教会おとまり会の報告

▼米美隊

実施日	平成23年3月29日・30日
参加者数	少年会員5人 育成会員2人 合計7人
プログラム	29日 11:00 集合。 12:00 昼食、テレビ、娯楽等。 18:30 夕つとめ、入浴。 21:00 就寝。 30日 6:00 朝つとめ。 7:30 朝食、勉強等。 12:00 昼食。 13:00 解散。
所感	里親の「家庭体験」事業として、一時預りをした子供と共に実施しました。 2才半の幼児を預り、教会で一緒に寝泊まりしましたが、女の子達が喜んで面倒を見ていました。

▼亀田山隊

実施日	平成23年7月2日・3日
参加者数	少年会員19人 育成会員2人 合計21人
プログラム	2日 16:00 集合、公園ゴミ拾い、おつとめ練習。 18:30 夕づとめ、夕食、自由時間、入浴。 21:30 おやすみ行事、就寝。 3日 6:00 起床。 30 朝づとめ。 7:30 朝食。 8:15 解散。
所感	こどもおぢばがえり勧誘を兼ねての実施。 シンプルな内容でつとめさせて頂きました。

▼香地華隊

実施日	平成23年7月28日・29日
参加者数	少年会員2人 育成会員1人 合計3人
プログラム	27日 22:00 高屋参拝、高屋にて就寝。 28日 8:30 香地華分教会へ移動、参拝、おつとめ。 川遊び、勉強、読書。 12:00 昼食づくり、昼食。 川遊び、自由時間 18:30 夕づとめ(香地華) 20:00 高屋参拝、宿泊。 29日 こだも団参出発。
所感	いつもの2人が来てくれて今年もおとまり会が出来ました。ありがとうございました。

▼高屋隊

実施日	平成23年8月9日・10日
参加者数	少年会員9人 育成会員5人 合計14人
プログラム	9日 16:00 集合、宿題。 17:00 DVD鑑賞。 18:30 夕づとめ、教話。 19:00 夕食。 20:00 花火。 21:00 入浴、就寝。 10日 5:30 起床、洗面。 6:00 朝づとめ。 7:00 朝食。 8:00 川遊びへ。 16:00 解散。
所感	学校行事と重なり、人数は少なかったので残念でした。 特に何をしたという事はないのですが、子供達の自由にさせていました。 こういうおとまり会だとあまり負担に思わなくてすみますので、どの教会でも実施できると思います。

▼天場山隊

実施日	平成23年8月9日・10日
参加者数	少年会員5人 育成会員2人 合計7人
プログラム	9日 18:00 集合、夕食。 19:00 夕づとめ。 30 入浴、ゲーム。 21:00 おやすみ行事、消灯。 10日 6:30 起床。 7:00 朝づとめ、ひのきしん、朝食。 9:00 海水浴。 12:30 昼食、休憩。 14:30 解散。
所感	夜には一緒にゲームをしたり、朝は海水浴と、子供達も少人数ながら大喜びでした。

▼福山隊

実施日	平成23年8月11日・12日
参加者数	少年会員20人 育成会員6人 合計26人
プログラム	11日 17:00 集合。 30 夕食、入浴。 18:30 夕づとめ、会長さんのお話。 19:30 ゲームラリー、かき氷など。 21:00 ふとんをひく、自由。 22:00 消灯。 12日 5:15 起床。 45 朝づとめ、会長さんのお話。

- 6 : 1 5 ひのきしん。
- 7 : 0 0 朝 食。
- 9 : 0 0 プールに出発。
- 1 0 : 0 0 プ ー ル。
- 1 3 : 0 0 昼 食。
- 1 4 : 0 0 解 散。

所 感 今回は夏休みということで、はじめて姉・弟で参加してくれる子もあり、たくさん的人数でおとまり会をすることができ、にぎやかでした。

ゲームラリーも暑い中でしたが、みんな楽しく参加してくれ、よかったです。

2日目もプールに行き、みんな仲良く、事故もなく、すごすことができました。ありがたいかぎりです。こどもおぢばがえりには、なかなか参加してくれる子が少ないですが、来年こそは、一人でも参加者がふえてくれるよう願っています。

▼坪生隊

実 施 日 平成23年8月12日・13日

参加者数 少年会員8人 育成会員7人 合計15人

プログラム 12日 13:00 集合、三殿礼拝、会長様お話。

30 川遊び(天神峡)。

16:30 夕食準備、ひのきしん。

17:00 夕 食。

18:00 夕づとめ、会長様お話。

20:00 薬師様参拝(教会の上で、当日、祭りでした)

20:15 花 火。

22:00 消 灯。

13日 5:30 起 床。

6:00 朝づとめ。

30 ひのきしん(ゴミ拾い)

7:30 朝 食。

8:30 三殿礼拝、会長様お話、解散。

所 感 いつもになく少人数でしたが、皆、楽しんでくれた様に思います。

12日の夜、教会のすぐ上の薬師堂の祭典で、それに皆んなで参拝をさせて頂きました。又その後、花火をさせて頂き、その時、近所の子供が3名参加してくれました。

夜は高校生大学生も来てくれ、手伝ってくれ、又、夜遅くまで話していたようです。

おとまり会出身者がこうして夜集まってくれる、ありがたいことです。



▼高児島隊

実施日 平成23年8月14日・15日
 参加者数 少年会員5人 育成会員5人 合計10人
 プログラム 14日 18:30 集合、夕づとめ、お話。
 19:00 夕食。
 20:00 お風呂、花火。
 22:00 消灯。
 15日 6:30 朝づとめ、ひのきしん(掃除)。
 7:30 朝食。
 8:30 福山みろくの里。
 解散。

所感 親せきの子供のみの参加でした。
 来年はこどもおぢばがえりに行ってくれた子供さんにも声をかけて出来ればと思います。。

▼稲瀬隊

実施日 平成23年8月19日・20日
 参加者数 少年会員8人 育成会員4人 合計12人
 プログラム 19日 17:00~18:00 集合。
 18:30 おつとめ
 夕食(カレー)。
 19:30 お風呂。
 22:00 就寝。
 20日 6:00 起床。
 30 朝勤後朝食。
 9:00頃から川へ行って泳ぎ
 り昼はバーベキューの
 つもりでしたが、大雨
 で教会の車庫でバーベ
 キューをし、夕方解散
 しました。

所感 思ったより多くの方が寄って頂いてなごやかなおとまり会が出来たと思います。



▼多古浦隊

実施日 平成23年8月19日(金)・20日(土)
 参加者数 少年会員26人(内、教会おとまり1名) 育成会員8人 合計34人
 プログラム 19日 17:30 教会へ集合。
 (金) 18:00 おつとめ。
 おつとめ後、会長よりお話。
 19:00 夕食会。
 その後、怖い話、肝だめし、トランプ etc。
 21:00 この日だけの者は解散。おとまり会の者はお風呂へ。
 22:00 消灯。

20日 6:00 朝づとめ。
 (土) 7:00 朝食。
 朝食後、とまった部屋の片付け。
 解散。

所 感 こどもおぢばがえり後の焼肉パーティーも恒例となり、人数もふえて来ました。今年は雨天の為、食堂で開催。花火もなし。でもなごやかで、子供も大人も満腹！
 おとまり会は、少年会員1名だけでした。一回で行事をすまそうとして考えが安易でした。来年は分けて考えたいと思います。
 おとまり会参加の子は、家の事情も有り、21日夕方まで教会で過してくれました。

▼芦常隊 (2回目投稿)

実施日 平成23年8月19日・20日
 参加者数 少年会員5人 育成会員6人 合計11人
 プログラム
 19日 18:00 食事。
 (金) 19:00 夕づとめ、会長お話、ゲーム。
 21:00 入浴、就寝。
 20日 7:00 朝づとめ
 (土) おつとめの練習。
 40 朝食、後片づけ。
 8:30~9:20 隣地グラウンドゴルフ場の草取りひのきしん。
 9:40 夏休み宿題。
 12:00 昼食。
 15:30 甲山20日えびす祭へ
 中型バスで参加(東部支部)。
 22:00 帰会、風呂入浴、就寝。

所 感 甲山えびす祭への参加。今年で3回目の参加で、東部支部内の少年会員がホコ行列の綱を引く。



▼惠陽隊

実施日 平成23年8月20日・21日
 参加者数 少年会員16人 育成会員5人 合計21人
 プログラム
 20日 17:30 集合。
 18:00 夕食。
 30 夕づとめ、会長の話。
 19:00 宿題(夏休みの)。
 (この間、順番にお風呂)。
 21:00 ゲーム<ビンゴ>花火。
 30 就寝(仲々寝ません)。

- 21日 6:15 起床。
 30 朝づとめ、会長の話。
 7:30 朝食。
 8:00 部屋のかたづけ、掃除、廊下ふきひのきしん。
 9:00 自由時間。
 10:00 おやつ。
 11:00~13:00 市民体育館で球技、遊び大会、おにごっこ他。
 その後昼食、解散。

所 感 こどもおぢばがえりに行きたかった子が集まってくれて、にぎやかにつとめさせて頂き、有りがたかったです。

次の日は雨だったので予定が少々変わって教会内のひのきしんをしてくれて廊下がピカピカになり有りがたかったです。

外遊びをさせたかったのですが、市民体育館を借り切って色々な球技大会が出来て、その後は大人も混じっておにごっこをしたりで逆に良かったという感想でした。夏休みのストレス解消だったのか思い切り走り回って楽しかったようです。

その後は昼食、参拝、会長の話、解散。喜んで帰ってくれたのが何よりです。



▼廣町隊

- 実施日 平成23年8月23日・24日
 参加者数 少年会員5人 育成会員3人 合計8人
 プログラム 23日 17:00 集合。
 18:00 夕食。
 30 夕づとめ、会長様のお話。
 19:00 夕食の後片付け(ひのきしん)。
 30 花火。
 20:00 お風呂。
 22:00 消灯。
 24日 6:00 起床、洗面。
 30 朝づとめ。
 7:00 朝食の準備。
 15 朝食、後片付け。
 8:00 自由。
 10:00 プール。
 11:00 ひのきしん(そうじ等)。
 12:00 昼食、解散。

▼福勇隊

実施日	平成23年8月26日・27日
参加者数	少年会員6人 育成会員4人 合計10人
プログラム	26日 <ul style="list-style-type: none"> ・夕づとめ。 ・夕食準備、夕食、夕食後片付。 ・花 火。 ・入浴、就寝。 27日 <ul style="list-style-type: none"> ・起床、洗面。 ・朝づとめ、ひのきしん(草取り)。 ・朝食、後片付け。 ・お話、おつとめ練習、鳴物練習。 ・おやつタイム。 ・夏休み宿題、解散。
所 感	子供達は喜んでくれました。食事のカレーがおいしかったことと、夏休みの宿題がだいぶ出来たことが良かったそうです。

第848期修養科募集要項

*修養科期間

立教174年12月1日～立教175年2月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	北 川 治 史 (大教会准役員・稲倉分教会長)
1ヶ月目	福 島 泰 道 (瑞北分教会長)
2ヶ月目	豊 田 宏 哉 (府中市分教会長)
3ヶ月目	掛 谷 宣 和 (坪生分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、2月29日午前10時に解散。

*教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』。

*参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護によりまして 季節は夏から実りの秋へと移り変わり 空には澄み渡った空気と十五夜のまん丸の月 山や里には真夏の暑さを取り込み一仕事終えた後の満足感をたたえた緑の木々 そして食卓にはたわわに実った食べ物の数々 残暑さえも心地良く感じられる今日この頃誠に有難く勿体ない極みでございます しかし一方では東日本大震災で被災された人々 又原発事故により避難を余儀なくされた人々が復興の先行きが見えなく不安な日々を送っています 事を思ふ時 手放して喜べない現実があります 私共は被災された方々の一日も早い復興と 世界中の人々の心の復興を願って朝夕に御礼申し上げると共に にをいがけ強調月との時句の理を受けて 日々たすけ一条の御用の上にとめ励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の九月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 明るく陽気に勇んで 坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には折からの台風による強い雨風をもろとせせず 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し改めて御礼申し上げます つ 世界の人々のたすけを願う真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月末二十八日から三十日にかけて全教一斉にをいがけデーでございます 本年お見せ頂いている親の残念立腹の姿に少しでもお応えさせて頂き 政治経済と共に混迷を深める人々の心に一筋の光を指し示すべく 一人でも多くの人に親の思いを伝えさせて頂きたいと 教会長を始めよふべく 信者一丸となってにをいがけに邁進させて頂く所存でございます 又来月は 大祭月でございますので 直轄教会への大祭参拝をさせて頂きます 十一月三十日の創立百二十周年記念祭に向けての思いをより強くして 残された日々と悔いの残らないよう成人の歩みを進め 皆揃って心晴れやかな記念祭となるよう誓い合いたいと存じます

何卒親神様には 旬の理を生かしつつ 御恩報じの心一筋にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さり 願う心の誠の理に尚も自由の御守護を賜りまして 世界中の人が待ち望む陽気づくめの世の状に 一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます

係員打ち合わせ行う

実行委員会

実行委員会(田中一之委員長)は9月21日、大教会9月月次祭後、創立120周年記念祭係員打ち合わせを行った。

大教会長様、田中同委員長の挨拶の後、上原繁道同委員から11月29、30日のスケジュールの説明があった。引き続き、各係ごとに分かれ役割の確認、準備などを話し合った。



役割打ち合わせを行う各係

新たに43柱を合祀

3月22日執行

大教会では3月22日、春季霊祭に先立ち大教会長様祭主のもと合祀を行い、新たに43柱の神霊を大教会祖霊殿に合祀した。

○神霊は次の通り

門脇誠教、中島宇一、赤木由枝、三島克巳、藤井昭子、豊田道人、黒瀬修次、高木一夫、開地俊夫、桑田正則、石井幸、森本浪江、佐々木滋郎、福島忠、三阪道輝、東濱十三雄、宮崎可夫、吉岡智三、松岡陸代、下村信義、渡邊勇喜、内田華恵、岩崎吉男、高橋久光、仙田夫次、村川秀夫、渡邊スミエ、佐藤ミツコ、小池宏一、佐藤昌平、難波猪八郎、酒本喜之、田中照夫、三宅一正、箕成一夫、高田弘之、橘高ギヌキ、時宗一善、井上モモコ、奥忠儀、畑敏男、谷内千代子、宮本おふさ。

<実行委員会>

○創立120周年記念祭について

- ・参拝者目標 3,000人(9月20日 第2回集計 1,704人)
10月20日 第3回参拝予定者報告
10月29日 参拝券配布
- ・記念祭スケジュール・各係員・駐車場案内図を本誌別冊にて発表
- ・おつとめ時、部内教会長は教服にて結界内で参拝

<庶務部>

○教会長・布教所長 家族調査

- ・加筆訂正のない場合も、用紙左上の欄に確認日を記入し確認印を押印してください。
- ・配布した用紙は、紛失しないように厳重に取扱い、必ず、10月末日までに提出してください。

<布教部>

○お帰り講話

期日 10月25日 詰所講堂

講師 茶木谷 吉 信 先生(本部布教二課研究員。大江大教会部属・正代分教会長)

<海外部>

- 記念祭当日、英語・中国語・ポルトガル語の同時通訳を行います。(教会に該当の方があれば海外部までご連絡下さい)

<詰所掛>

- 10月1日から佐藤順氏(御野分)が勤務されています

<青年会>

○毎月ひのきしん

- ・9月分 9月18日実施 参加者35人
- ・10月分は10月30日(日)『青年会員のつどい』のプログラム内で実施

<少年会>

- 教会おとまり会実施教会は報告書を提出して下さい

大教会だより

◎本部食堂ひのきしん

自 立教174年10月1日
 至 立教174年10月8日
 米 府 折 田 英 昭
 自 立教174年10月9日
 至 立教174年10月15日
 松 都 勝 田 直 樹

◎立教174年秋季大祭参拝

福 山 佐 藤 道 孝
 高 屋 大 教会 奥 様
 神 邊 岡 本 久 善
 島 根 吉 岡 吉 岡 善 壽
 久 松 吉 岡 吉 岡 善 壽
 鶴 山 大 教会 長 様
 弥 高 山 岡 本 久 善
 陽 備 上 原 繁 道
 摩 耶 中 村 邦 義
 金 浦 佐 藤 道 孝
 興 明 大 教会 奥 様
 ひろさと 佐 藤 道 孝
 陶 山 吉 岡 大 教会 長 様
 芳 井 大 教会 長 様

呉 照 中 村 剛
 海 松ヶ岡 上 原 繁 道
 東 悠 岡 本 久 善
 吸 江 上 原 繁 道
 照 陽 大 教会 長 様
 輝 美 濃 岡 本 久 善
 新 山 邑 上 原 繁 道
 皆 部 大 教会 奥 様
 明 石 市 吉 岡 善 壽
 上 下 田 中 一 之
 府 中 市 大 教会 長 様
 東 城 大 教会 長 様
 服 部 中 村 邦 義
 島 中 村 邦 義
 驛 家 中 村 邦 義
 油 木 佐 藤 道 孝
 葦 陽 田 中 一 之
 湯 田 原 大 教会 奥 様
 備 中 田 中 一 之
 神 昭 中 村 剛
 美 之 郷 中 村 剛
 錦 備 岡 本 久 善
 笠 晴 大 教会 奥 様

こころの詩

東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

秋雨に衣縫う母のそばにより

民話に耽ける遠き日の午后

旅さきの加賀の里より届きたる

秋一杯の教友の小包

落日の甘櫛に立ち三山に

古代といつ、秋深みゆく

▼表紙の書

天場山分教会 役員 野津正樹さん



教会長路傍講演に参加した。当支部は4箇所に分れそれぞれJRの駅前10時から1時間の行事だ。残念ながら参加者が年々減って多いときの半分位になった。どうしてだろうか？ 私は絶対参加します。毎年このことながらハンドマイクを握ると思わず押すスイッチに力が入りません。教祖のこと、神殿のこと、朝夕のおつとめ、月次祭の話し、修養科の話し等を申し上げる。バス停から次々に下車してくる人達、歩いて駅に来られる人達、コンビニや大きなストアの買い物客達……。その方達に向かつて懸命に話します。横に「陽気ぐらし、天理教、感謝、慎み、たすけあい」の旗差し物を掲げて立つてくれている。他の教友はパンフレットと、「感謝、慎み、たすけあい」の字句が入ったティッシュを配っている。500枚のティッシュは1時間ではなくなった。でもやはり少人数ではどうしても意気が上がらない。9/28日は決まっているのだから来年こそ大勢で勢いよく勤めたいものだ。

大教会創立百二十周年記念祭

◎タイムスケジュール

11月29日

17:00 真柱様、奥様 随行諸先生 ご到着

11月30日

8:30 受付開始（弁当券、記念品配布）

—教会から配布している参拝券を忘れずに提示してください—

10:00 祭典開始（真柱様御夫妻、随行先生の入場）

12:20 おつとめ終了

・弁当缶ビール、お茶を配布致します

12:40 中庭舞台でアトラクション開始

お供えした樽の鏡割のあと、御希望の方に樽酒をお分けします。

※車運転手の方は缶ビール、樽酒は飲まないで下さい。

15:00 アトラクション終了

15:30 真柱様御一行 ご出発

◎役割

（◎主・○副）

①総務（理事、幹部承事）控所：会計室横応接間

◎武内 清、田中一之、岡本久善、上原繁道、浅野和芳、
佐藤道孝、吉岡 壽、中村邦義、中村 剛。 付)浅野明教

②総務室（実行委員）控所：神事所

◎田中一之、岡本久善、上原繁道、佐藤道孝、吉岡 壽、
中村 剛、森本忠平、門脇元教、上原志郎、田中隆之、
高木昭祥、山野弘実、山田敏教、森本忠善、武内正美。

③神事

◎岡本久善、○三島 渉、田林志計實、岡崎和夫、西江昌直、
中村道徳、上原 浩、三代正道、虫明立生、福田 勝、
高山森雄、宮地勝之、藤本五郎、北村 保、串田幸恵、
掛谷和由、藤井治喜、藤井マス子、掛谷宣和、矢田哲一、
北村立人、藤本基喜、佐藤理生人、猪原啓文、三宅善久、
山成友司、瀬藤教雄、鳥谷秀夫、本多一男、川上道美、

須山克子、塩田能往、仙田勉、仙田公男、下田章、
寺下宏一、三宅俊正、下田孝徳、田中幹夫、橘高祐高、
友井道雄、川上正毅。

④会場 ◎佐藤道孝、岡崎和夫。

○司会・進行 ◎武内正美、室悦子。

○会場 ◎吉岡誠一郎、岡崎輝彦、赤木素志、小坂静宏、岡田誠、
竹本和道、三阪泰人、藤本イツエ、枝廣隆文、三嶋正教、
原公彦、小川洋子、重政禎子、高島寛、松本幹則、
三代信行、佐藤久枝、酒本嘉子、箕成節子、田中一矩、
丸山正人、岡明、田原節夫、松谷静子、奥忠郎、
渡邊孝信、三島順教。他婦人会

安斉美代子、小林信行、佐藤憲和、永戸孝弘、池田孝志、
樋上謙二、西村健、常井二三代、長谷川裕、岡崎佳夫。

○受付 ◎河原節喜、○佐藤真孝(東ブロック)、時宗一実(西ブロック)、
宮本泰徳(福山)、吉岡孝彦(高屋)、三代温生(島根)、
佐藤憲美(久松)。

酒井實、下宮真治、高島直道、村川文夫、山田要、
浅野宣宏、山野季彦。

○弁当・記念品 ◎佐藤道孝、○中村道徳、高木昭祥、豊田宏哉、鳥井利昭、
福島大介、藤井保人、吉岡貞彦、佐藤哲、森川弘志、
雑賀元生、高橋徳行、余村健、下田誠輝、村川和司、
池平武司、高田一弘、桑本光則、田淵光明、山田睦浩、
高信正人。

前山欣映、佐藤大地、檀上康男、原敬之助、藤井道博、
高島裕一郎、藤井宏一、大月道昭、内田比呂志、村川真二郎、
安原道治、松浦勲、吉岡久信、田中俊道、押尾功司、
坂上通正、安斉和美、三島衛。

○教会記念品 ◎上原澄雄、○笹尾正治、上原眞雄。他各ブロックから一名

○参拝者接待 ◎中島誠治、○藤井正仁、虫明好美、貞清知実、瀬良善彦、
三代幸、岩崎光生、香取雅人、石井守。

⑤来賓・接待 ◎上原繁道、○吉岡壽、谷内伸自、上原志郎、上原浩、
浅野明教、上原聡。

役員一同(准承事を含む)、各ブロックの責任者

○客殿 ◎上原きよれ、○田中ますみ、今川佐智子、武内正美、岡崎豊子、
門脇加津、高木孝子、横山小智榮、西村由理子、岡崎和美、
桑田恵美子、吉岡八恵、田中つかさ、森本ひふみ、山野なつ。
女子青年

⑥会 計 ◎武内 清、○佐藤道孝、今川昌彦、武内清明、北川 勇。

⑦庶 務 ◎上原繁道、○岡崎真一。

○放 送 三代もとい、高田しのぶ。

○記 録 ◎杉原博之、○中村義太郎、○虫明立生、西村彦一。

他かさおか編集掛員

○記録写真 ◎吉岡輝昭、○友井道弘、栗田省吾、猪原英之(ビデオ録画)。

○記念写真 富士スタジオ —— 参拝場で撮影。

○備 品 ◎岡崎和夫、○武内清明、浅野明教、内海史郎。

○電気設備 ◎山野弘実、○藤本芳久、桑田則昭、猪原啓介、田中亜輝、

福田恵司、猪原英之、北川勇二。

⑧会 長 室 ◎上原明勇、○上原 浩。

○御 揮 毫 ◎谷内伸自、○上原 聡、三宅八壽夫。

⑨駐 車 場・保 安 ◎山田敏教、○田林久嗣、○上原繁次、(豊田宏哉)、平盛秀年、
(貞清知実)、(高田一弘)、豊田俊美。

山田英嗣、田渕忠明、谷内秀自、杉原善朗、中村元彦、
岡崎治喜、森本正典、森本 勇、森本直彦、平盛尚樹、
藤本晴司、谷屋賢三、秀平元一、重政理治、三嶋文昭、
辻井伸雄、三代幸徳、三代一実、中村真人、中村剛史、
中村行善。

⑩行 事 ◎中村 剛、○門脇元教。

○模 擬 店 ◎森本忠平、○横山逸郎、渡邊隆夫。

○イベント・鼓笛 ◎上原志郎、○田中隆之、森本忠善、猪原啓介、津森朋之、
渡邊泰造、三宅紀子。

⑪宿 泊 ◎中村邦義、○浅野明教。

○炊 事 ◎三島照美、○中村理恵、浅野はるえ、今川直子、内海純子。 他

○信 者 室 ◎今川昌彦、中村義太郎、浅野明教、高田賀代子、岡本弘子、
内海安子。

○救 護 中村初美、浅野はるえ、猪原和恵、瀬良 恵。

○海外帰参者 ◎上原順子、上原千枝子、津森朋之、宮本正明、原 裕美、
三代幸徳、三代ガシェリ、三代あゆみ、三代節生、佐藤和代、
田林宏章、杉原栄司。

⑫詰 所 上原珠世、教 養 掛 (北川治史、福島泰道)。

◎ 駐車場ののご案内

- ① 駐車場には限りがあります。乗り合わせてお越してください。
- ② 「大教会入口」や通路の途中に立っている係員の指示に従って、同乗者を乗降場で降ろし、誘導される場所に駐車してください。
- ③ 運転手の方は、往路・復路とも、交通法規を遵守願います。
- ④ 大教会出口の退場は、必ず左折してください（右折禁止）。

